

【東京都美術館】 指定管理者提案書類(事業計画書) 概要

1. 管理運営の基本方針

■基本方針

平成24～令和2年度
リニューアルから文化の祭典に向けて
令和3～8年度
都美100周年に向けて
令和9～12年度
文化で世界を惹きつける都市東京を代表する美術館へ

《「ミッション」》

- ・全ての人に開かれた「アートへの入口」
- ・「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き「生きる糧としてのアート」と出会う場
- ・人々の「心のゆたかさの拠り所」

《4つの役割》

1. 世界と日本の名品に出会える
 2. 伝統を重視し、新たな息吹との融合を促す
 3. 人々の交流の場となり、新しい価値観を生み出す
 4. 芸術活動を活性化させ、鑑賞の体験を深める
- これらを右の4つの柱により具現化する

■館の機能の総合的な発揮



■「『未来の東京』戦略ビジョン」

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略 アートショーケースTOKYOプロジェクト

アートがまちの至る所に溢れる都市の実現

- ・上野公園地域と近隣商業施設との連携企画等により、地域の魅力向上に寄与
- ・「とびらプロジェクト」で培ったノウハウと事業フレームの情報を全国の自治体等に提供し、さらに連携しながら広く展開

誰もが、いつでも、どこでも、芸術文化を楽しめる環境を整備

- ・美術作品のもつ醍醐味を堪能していただく場として、広くアートへの関心を喚起する機会を提供
- ・最先端の映像技術や通信技術を活用した展示方法や3Dギャラリー等様々な可能性を追求

才能のあるアーティストの発掘・育成、文化の担い手の裾野を広げる

- ・企画展や公募展活性化事業を通じて中堅、若手作家の紹介や新たな価値を切り開く展示を実施
- ・作家がさらに羽ばたいていけるように、それぞれのステージに応じて支援

東京の社会課題の解決に貢献

- ・専門のNPOや大学等多様な主体と連携し、高齢化社会における社会課題の解決に貢献する「エイジフレンドリー＆ダイバーシティ事業」を実施

■国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)

海外	海外美術館展の開催、国際博物館会議への参加	地域	上野公園:Museum Start あいうえの 教育機関:周辺のエデュケーション機関と包括協定を締結
国内	国内の美術館等のネットワークに参加、情報交換・交流	財団内	他館と連携したコレクション展の開催、音楽会参加者の割引、まちなかコンサート、TURNフェス(アーツカウンシル東京)
都内	都内施設と連携し、来館者の利便性・館の認知度向上を図る		

2. 事業に関する業務

■美術作品等の分類整理、記録及び保管等

- ・貴重な財産である作品を良好な状態で次代へ引き継ぐ

■調査研究

- ・対象:作家、作品所在、都美術館の歴史等
- ・手段:学会等への参加、共同研究、館外研修等
- ・成果の還元:展覧会、学会発表、他美術館の委員等

■展覧会

- ①特別展(新聞社、テレビ局等と共催)
 - ・世界の美術館と連携し、質の高い芸術作品に親しむ機会を提供、多様な視点で時代や地域を紹介
- ②企画展(学芸員の立案により独自に実施)
 - ・「生きる糧としてのアート」と出会う場の提供、社会に対するメッセージの発信、障害者など多くの人々に開かれた展覧会を開催
- ③コレクション展:「東京都コレクション」を活用

■公募展

- ・公募団体展・学校教育展:人々の交流と様々な価値を見出す創造活動を促進、支援

○公募展活性化企画展

- ・上野アーティストプロジェクト:
 - 毎回テーマを設けて開催、公募団体で活躍する作家を紹介
- ・グループ展:内容と企画性を重視し展覧会企画を公募、若手作家に発表の機会を提供

3. 館の運営に関する業務

■休館日及び開館時間

- ・上野公園内文化施設との相乗効果を図る開館時間
- ・夜間開館の実施 7月・1月にメンテナンス休館

■館内サービス

- ・コンシェルジュの配置:館内案内、観光案内、外国語対応
- ・外国人対応:サイン整備、日英表記、決済手段の多様化
- ・混雑時:開門時間変更、テント設置、待ち時間情報発信等
- ・救護室、授乳室の設置、バリアフリー化、託児サービス
- ・ショップ、レストラン・カフェの運営
- ・ホスピタリティをもった、スタッフの顔の見えるサービス
- ・お客様からの意見・苦情への迅速な対応

5. 館の管理その他に関する業務

■館の管理

- 施設等の管理業務:これまでの歴史と伝統を重視し、事業・運営を支える適切な維持管理

- 危機管理:災害対応力を備え、来館者・職員の生命及び後世に継承させていくべき文化資源を守る

- ・お客様の安全確保:危機管理マニュアルに基づく対応、感染症の拡大防止についても適切に実施
- ・展示品・収蔵品:安全な展示・収蔵、盗難対策
- ・大規模災害発生時:一時滞在施設等の役割を適切に果たす、アクションカード(役割別の行動指標)の運用

■地域等との連携の取組

- 上野「文化の杜」新構想会議:上野公園及び周辺地域のネットワークを強化し、文化交流のハブとして整備
- Museum Start あいうえの:上野公園内文化施設が連携し子供たちのミュージアム・デビューを応援するプロジェクト

■教育普及活動(アート・コミュニケーション事業)

- ①「とびらプロジェクト」市民との協働とアート・コミュニティの形成
 - ②「Museum Start あいうえの」地域連携、青少年の学びの場づくり
 - ③「教育普及事業」ジュニアガイド制作、障害者の為の特別鑑賞会
 - ④「エイジフレンドリー＆ダイバーシティ事業」高齢者・認知症に対応した文化リンクワーカーの養成とプログラムの実施
 - ⑤「オールジャパン連携事業」全国各地の美術館や地方自治体とアート・コミュニティ形成の知見を共有し、共に成長する
- 以上の①～⑤を通して社会課題の解決に貢献する事業を行う。

■その他の事業

- ・美術情報室:ライブラリー機能とアーカイブズ機能を担う
- ・アートラウンジ:館の歴史を紹介、コンサート等にも活用

■人材の育成

- ・アート・コミュニケーター、アーティスト育成(公募展活性化事業)、インターンシップ受入れ、エデュケーターの育成

■館の事業を支える仕組み

- 広報:年齢・使用言語・障害の有無等による情報格差を解消し「全ての人に開かれた」広報を目指す

- 来館促進:障害者のための特別鑑賞会、「とびらボード」貸出、ベビーカートツアー、ジュニアガイドの配布等

- 人々の自発的な活動との連携:任期満了後・他自治体のアート・コミュニケーターとの協働等

- 外部意見等:専門家や一般来館者の意見を取り入れ反映

- ニーズの把握:顧客満足度調査・非利用者調査の実施

- 外部資金の導入:協力金・助成金の獲得、資・機材等の現物支給等

■施設及び付帯設備貸出し

- ・講堂:文化芸術関連の授賞式、講演会、セミナー等に活用
- ・スタジオ:ワークショップ等の創作活動、会議等に活用

4. 組織及び人材

- ・専門性と経験実績がある職員を適材適所に配置
- ・美術館の使命を自覚し「心のゆたかさの拠り所」となることを目指す職員を育成
- ・各種研修により専門能力、新たな社会課題に対処できる広い視野、経営上のバランス感覚の向上を支援

テロ対処合同訓練

